



日米の架け橋として ベンチャー企業を支援

石井正純 アスカ代表取締役社長

日米のハイテク・ベンチャー企業と大企業の橋渡し役として、「アメリカ企業の日本・アジアでの事業展開」と「日本企業のアメリカでの事業展開」を支援しているのがアスカの石井正純社長だ。

1980年代初め、マッキンゼーの経営コンサルタントとして、主に日本企業の海外戦略立案を手がけていた石井氏はシリコンバレーで多くのベンチャー起業家たちに出会う。そして、「アメリカのベンチャー企業の優れた技術を日本に持っていきたい」という思いから、アスカを設立した。

単に提携の仲介をして、手数料を受け取るだけのコンサルタント業務にとどまらず、「有望なベンチャー企業には労働力と頭脳を提供して、代価は株式で受け取る。自分自身がエンジェルとして出資することもある」。

アスカが支援する企業は、情報技術関連が六割、ライフサイエンス関連が三割、クリーンエネルギーなど環境関連が一割で、いずれも「21世紀の成長分野」だ。

最近では、低コストの大型フラットパネル、燃料電池、遺伝子診断技術、太陽光発電用パネルの量産技術等々を日本の企業に紹介して、早期



石井正純社長

の実用化、市場開拓に結びつけようとしている。

日本の大企業がアメリカのベンチャー企業とつきあうのは、現実的にはなかなか難しい。それを橋渡しすることは、すなわち、日本企業に対して「新規事業の開発」を後押しすることにもなる。

石井氏は、東京大学工学部計数工学科卒業後、丸紅エレクトロニクスを経て、日本IBMに入社、76年に同社からスタンフォード大学に留学し、コンピュータ・サイエンスで修士号を取得した。IBMに戻ってからは「分散処理」を日本に持ち込むプロジェクトなどに携わった。その後、ソフト関連のベンチャーを自分で立ち上げようとしたがうまくいかず、コンサルタントに転身した。

技術に加え、日米の企業風土、ベンチャー・インフラの違いを熟知していることが、戦略立案にかかわるうえでの大きな強みになっている。



ホワイトカラー対象の 職業訓練プログラム

雇用促進事業団のアビリティガーデン（東京都墨田区）は、業務の一環として、ホワイトカラーを対象とした職業訓練を実施している。

一つは、主に在職者を対象とする能力開発セミナーで、各産業界の人がどういうスキルアップが必要かを念頭に置き、業界の生の声を吸い上げてプログラムが作られている。受講者の多くは企業から派遣されてくるが、求職中で自分が関心のある業種のコースを受講する人もいる。

もう一つのコースが、離職・転職で再就職を目指す人向けの公共職業訓練（アビリティコース）だ。昨今の不況、失業率の悪化を反映して、ホワイトカラーに焦点を当てたこの職業訓練が非常に注目されている。

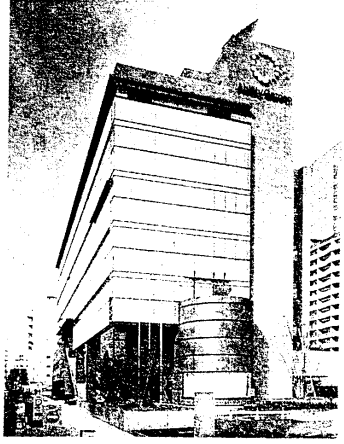
先に挙げた能力開発セミナーの日程は数日間限定が多い。が、アビリティコースは六カ月間、一日中カリキュラムが組まれている。

主に前職が管理職だった人向けの「ビジネスエキスパート」がメインコースだが、そのほかにも「ビジネスキャリアアップ」「プロダクト・マネジメント」「ビジネス科」若年層を想定した「ビジネスパワーアップ」の四科目がある。入所時期

は4月、10月の二回だったが、昨年来ビジネスエキスパート科への申し込みが殺到、今年から急遽7月、1月と機会を四回に増やしている。

ハローワークからの受講指示を受けてくる人も多く、その場合、訓練受講期間中は雇用保険の失業給付が受給できるようになっている。

7月期のビジネスエキスパート課は、定員30名、募集期間は6月8日から6月22日、選考方法は作文を含む書類選考と面接だ。10月期は四科目とも募集、募集期間は7月1日から8月4日まで。詳細は、雇用促進事業団生涯職業能力開発促進センター能力開発部指導課まで。



アビリティガーデン全景